

5 健康

-
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
 - (7) 自身の健康状態について
 - (8) がん検診の受診状況
 - (9) 受けたがん検診の種類
 - (10) かかりつけ歯科医院
 - (11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容
 - (12) 感染症予防としての手洗いの実践状況
 - (13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズの認知状況

問15 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～(※)」を知っていますか
(○は1つだけ)。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

■【知っている】は4割強で最高値を更新

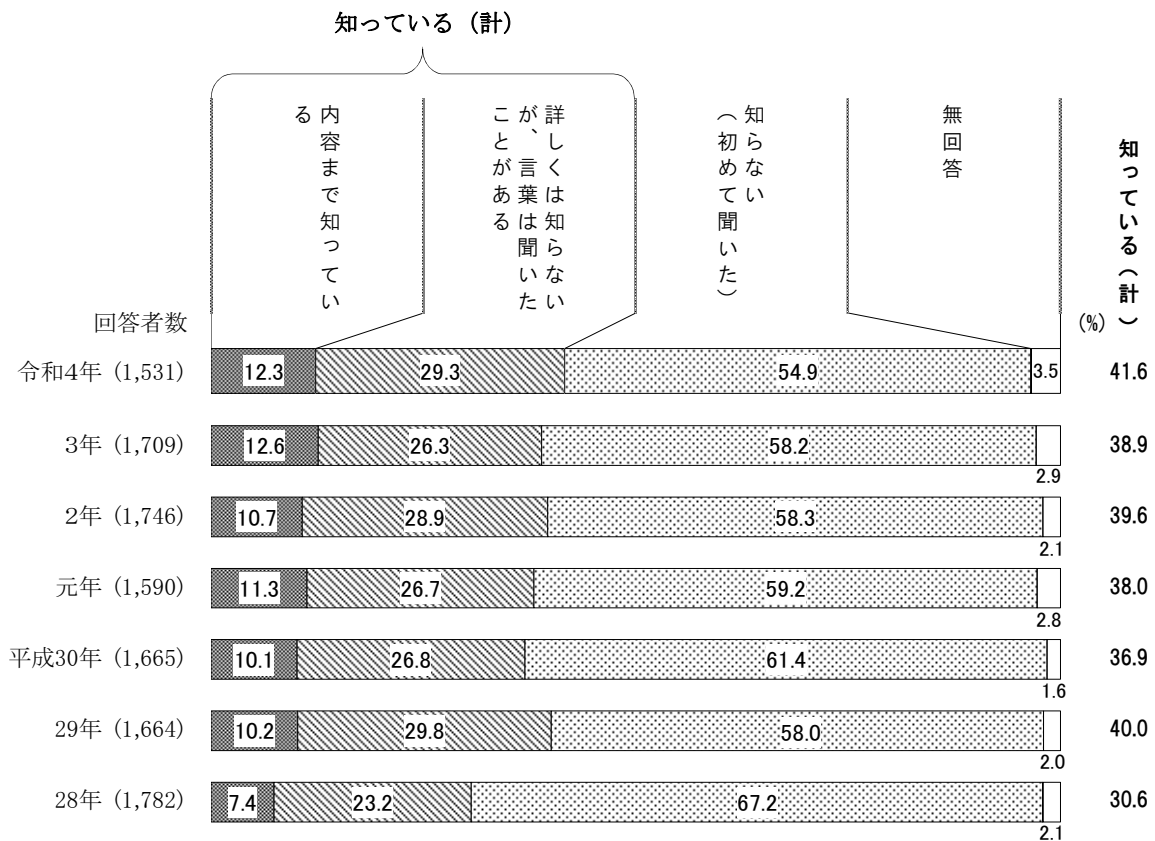
ア 単純集計・経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

(ア) 区のキャッチフレーズ『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は12.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(29.3%)を合わせた【知っている】は41.6%となっている。

(イ) 区のキャッチフレーズを「知らない(初めて聞いた)」は54.9%となっている。

(ウ) 経年でみると、【知っている】は、前回調査から2.7ポイント増加し、平成29年調査の40.0%を上回る割合となった。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況

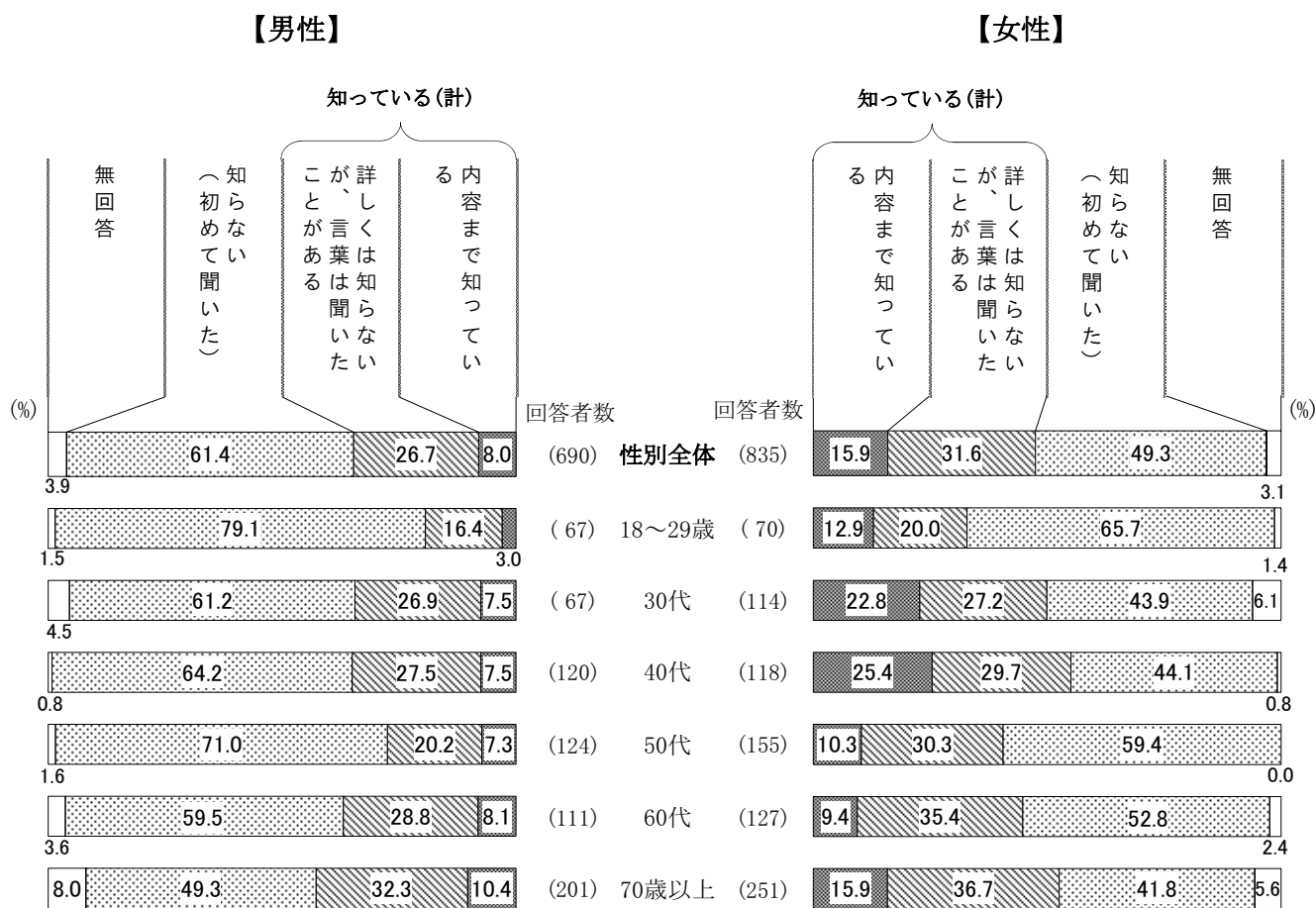


イ クロス集計・性別、性・年代別／キャッチフレーズの認知状況

(ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（47.5%）の方が男性（34.6%）より12.9ポイント大きく上回っている。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は女性の40代で55.1%と最も高く、次いで、女性の70歳以上で5割強となっている。また、男性の18～29歳で19.4%と他の性・年代層に比べて特に低くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

問16 初期の糖尿病には自覚症状がありませんが、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で、あなたが知っているものはどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「失明」が6割、「足の壊疽（えそ）」が6割弱

ア 単純集計・経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

(ア) 糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいの中で“知っているもの”を回答してもらった結果の上位は以下のとおりとなっている。

- ①「失明」(60.2%)
- ②「足の壊疽（えそ）」(58.2%)
- ③「人工透析」(46.2%)
- ④「口の渇き」(45.5%)
- ⑤「腎不全」(34.7%)

(イ) 前回調査と比較してみると、上位5項目の順位に変動はなく、割合でも特に大きな違いはみられない。

図5-2-1-① 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

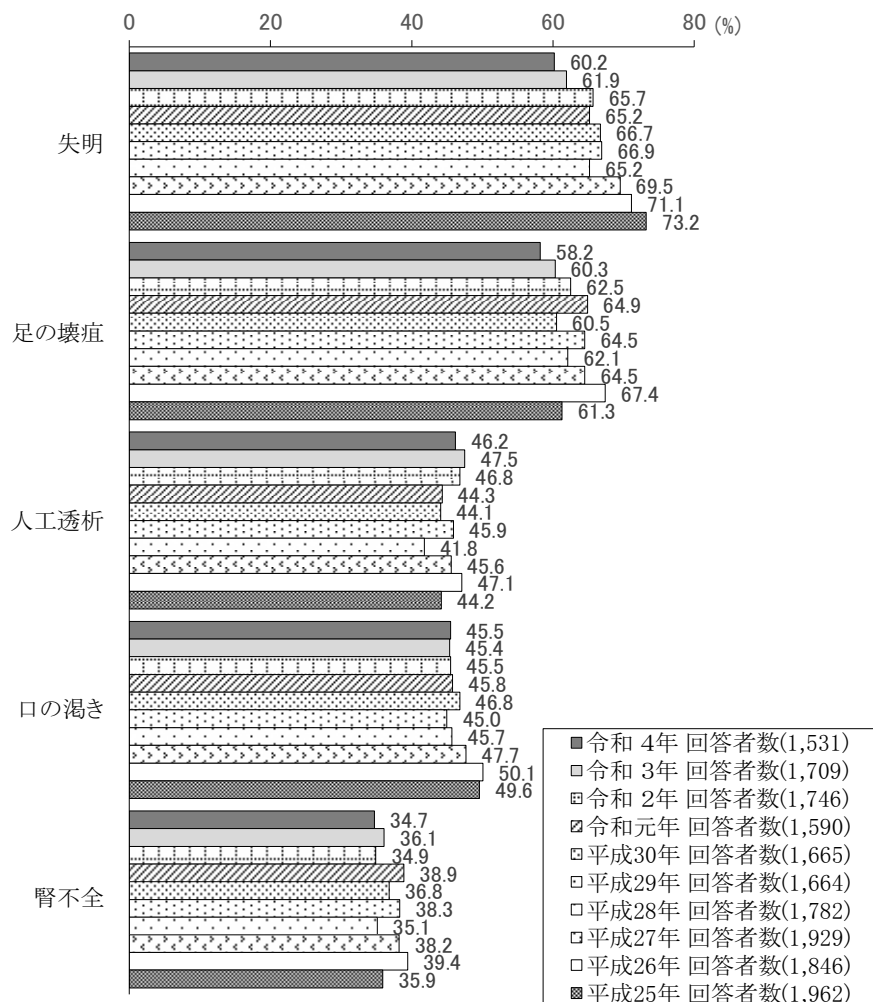
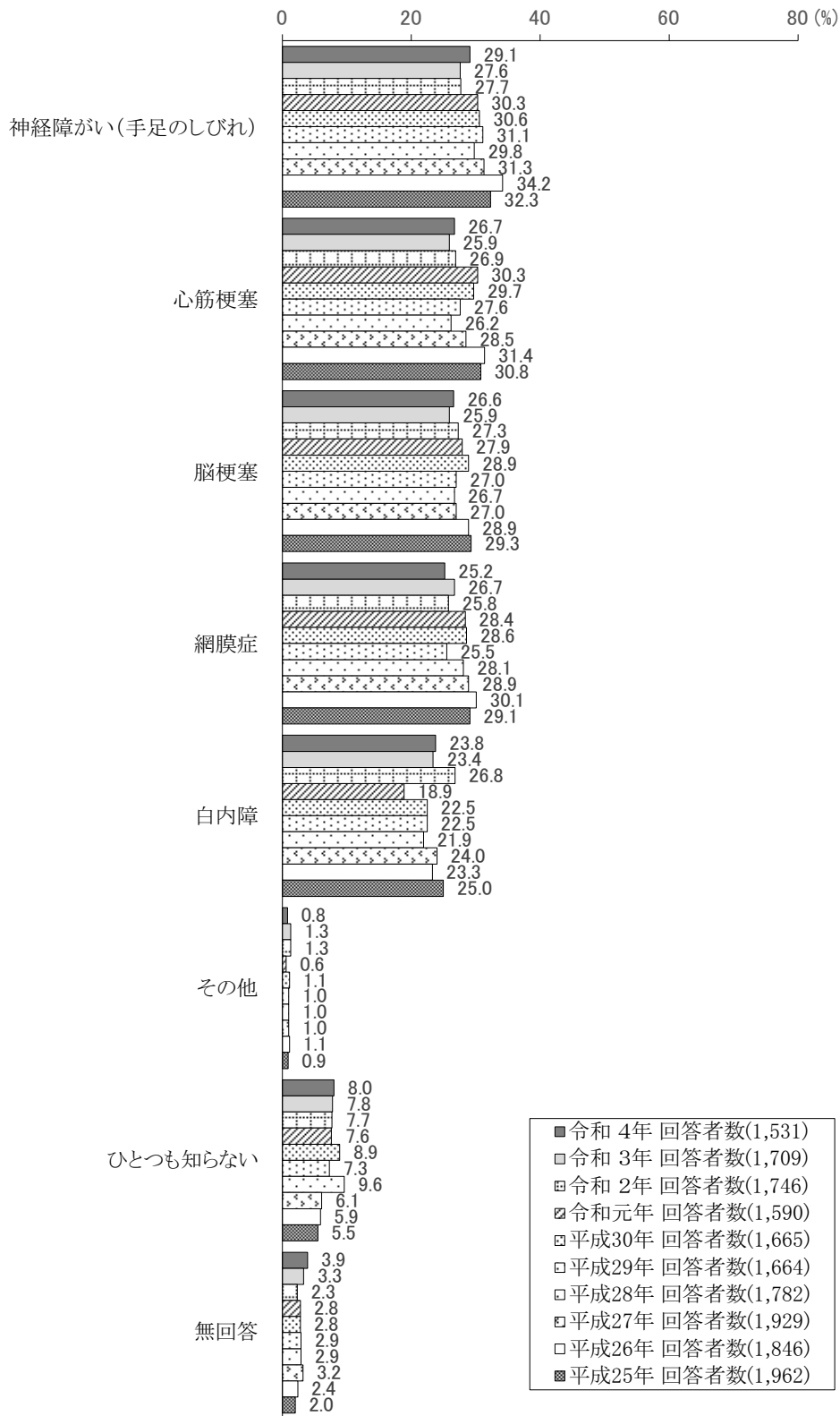


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識

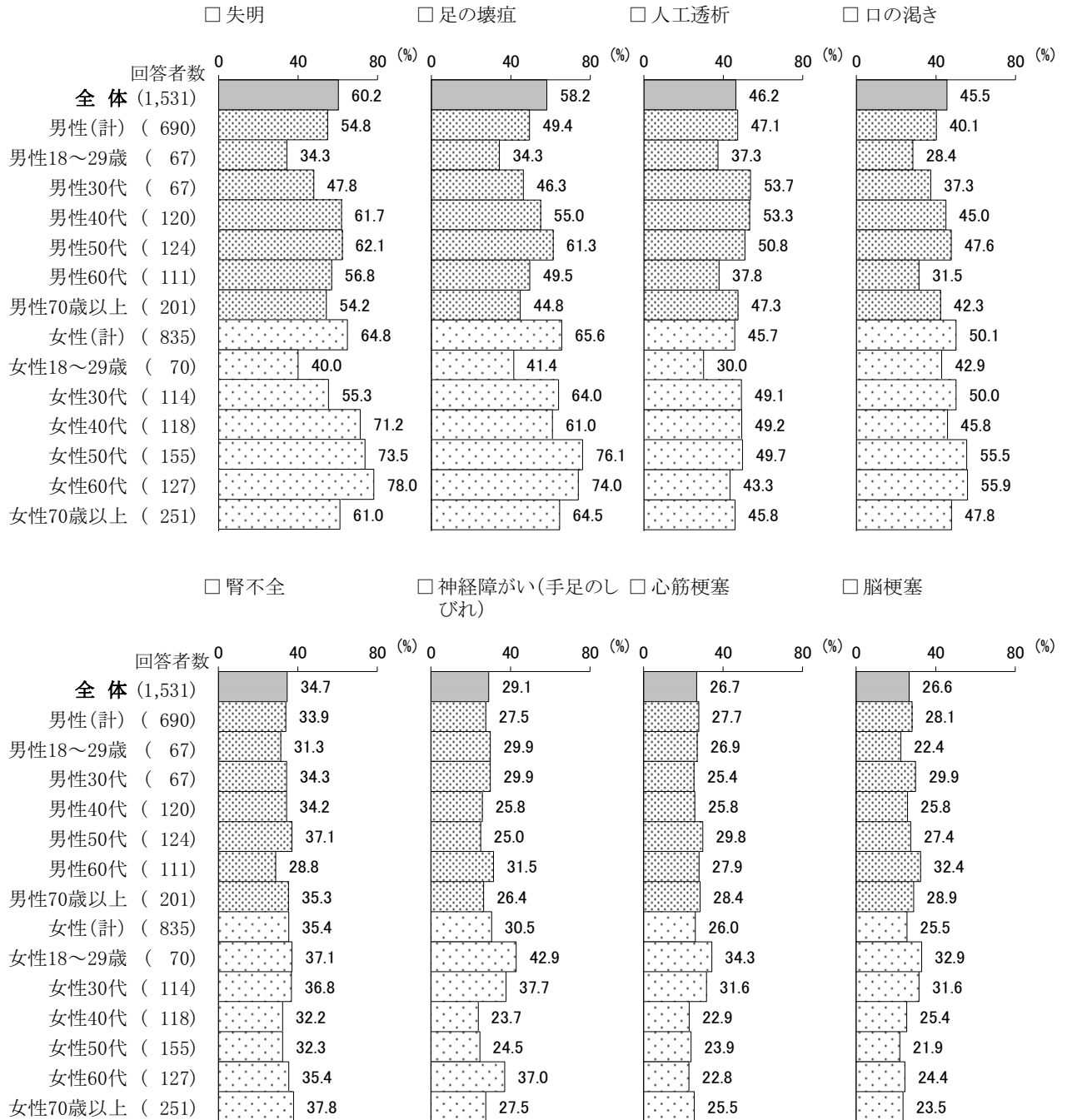


※「ひとつも知らない」は、令和元年調査まで「わからない」で聴取していた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識（上位8項目）

- (ア) 性別で見ると、「足の壊疽」で女性の方が16.2ポイント高いのをはじめ、「口の渇き」と「失明」(各10.0ポイント) など上位の項目では女性の方が男性より高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「失明」は女性の40～60代で7割台、「足の壊疽」は女性の50～60代で7割台、「人工透析」は男性の30～40代で5割台半ば近くと高い割合となっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

問17 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

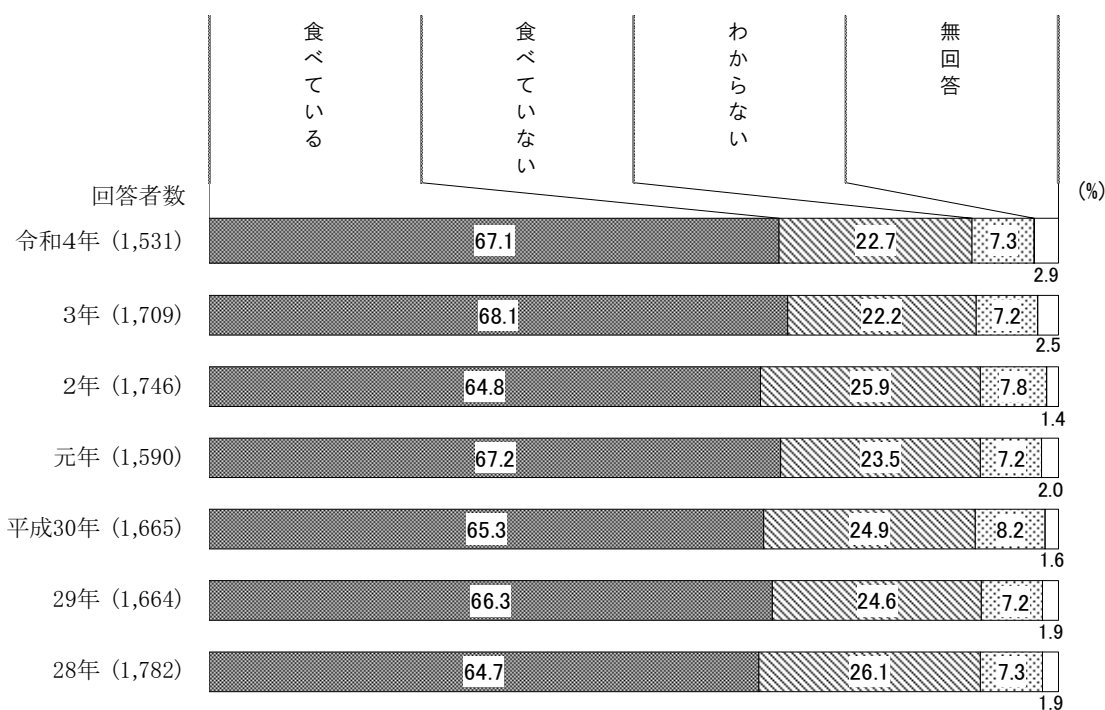
■ 「食べている」は6割台半ばを超えて変わらず

ア 単純集計・経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 野菜から「食べている」は67.1%を占めており、「食べていない」は22.7%となっている。

(イ) 経年でみると、前回の令和3年調査に比べて特に大きな違いはみられない。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況

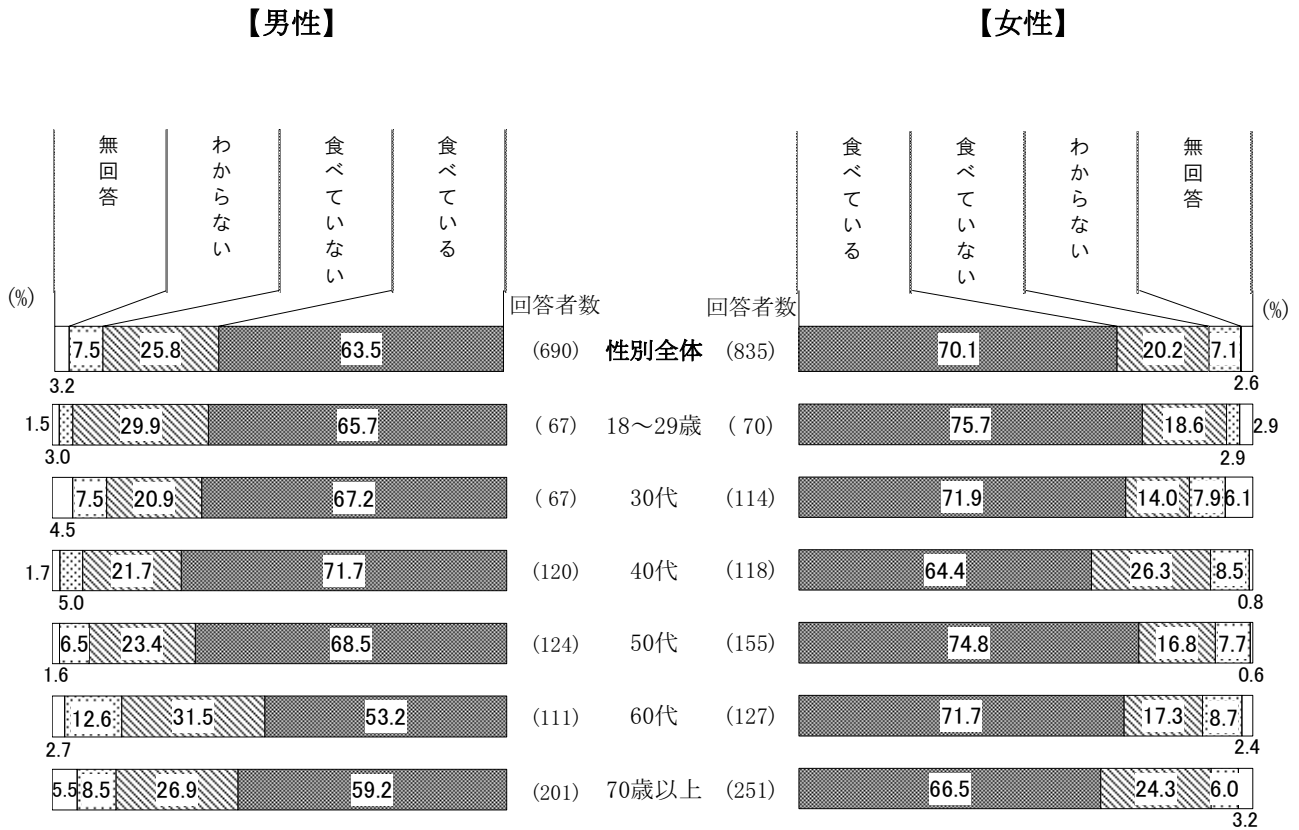


イ クロス集計・性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況

(ア) 性別で見ると、「食べている」は女性（70.1%）の方が男性（63.5%）より6.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「食べている」は、女性の18～29歳で75.7%と最も高く、次いで女性の50代が74.8%となっている。一方、男性の60代と70歳以上で5割台と低くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



(4) 1日野菜350g以上の摂取

問18 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

■【できている】が4割強で、【できていない】（5割）に及ばず

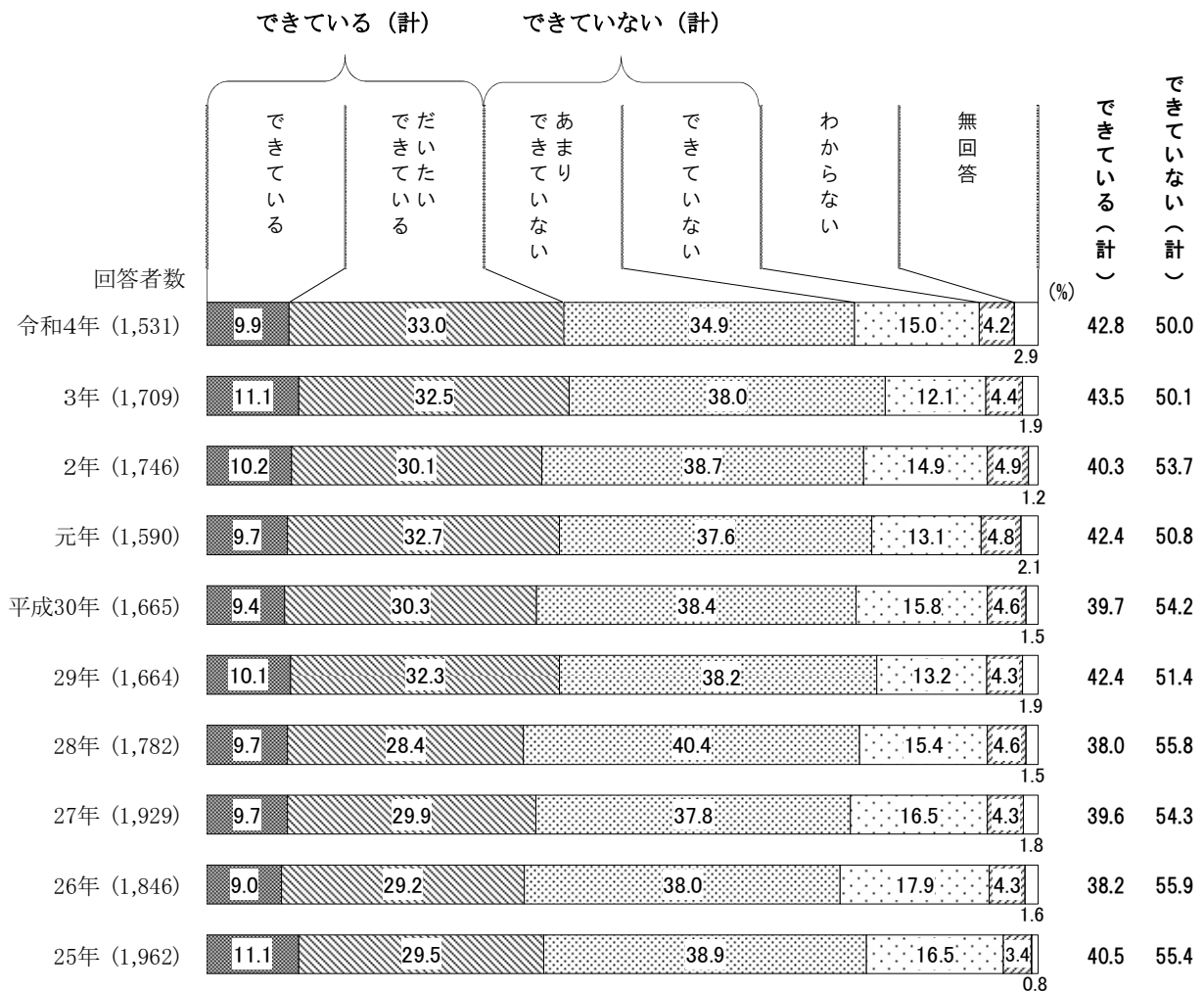
ア 単純集計・経年比較／1日野菜350g以上の摂取

(ア) 毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.9%で、これに「だいたいできている」(33.0%)を合わせた【できている】は42.8%となっている。

(イ) 野菜の摂取を「あまりできていない」(34.9%)と「できていない」(15.0%)を合わせた【できていない】は50.0%となっている。

(ウ) 経年で見ると、前回の令和3年調査に比べて、【できている】と【できていない】の割合では大きな違いはないが、「あまりできていない」が3.1ポイント減少し、「できていない」が2.9ポイント増加している。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

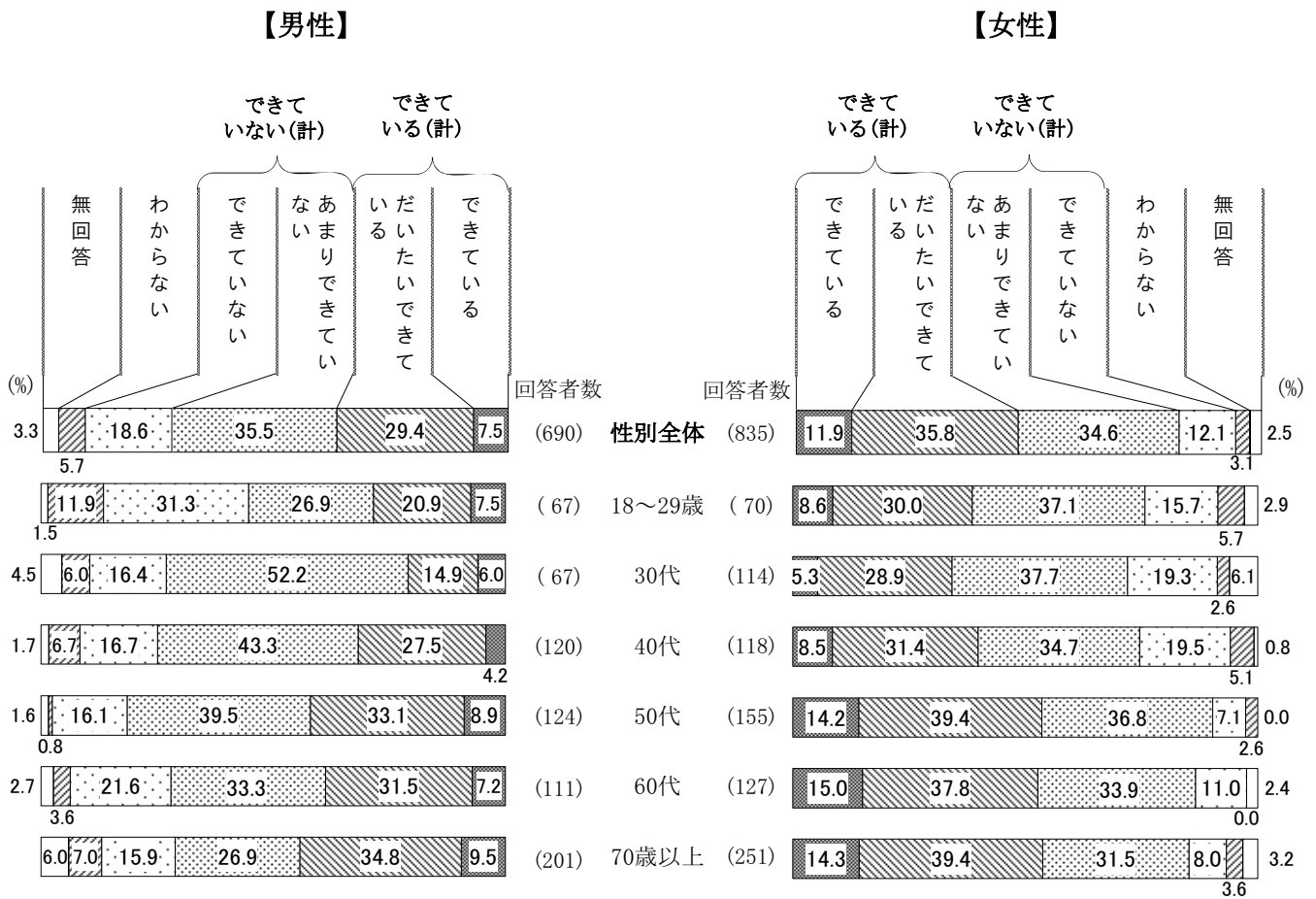


イ クロス集計・性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

(ア) 性別で見ると、【できている】は、女性（47.7%）の方が男性（37.0%）より10.7ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、【できている】は男性では40代以下が2割から3割強、50代以上が4割弱から4割台半ば、女性では40代以下が3割台、50代以上が5割台と、男女ともに40代以下と50代以上の2層に分かれている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

問19 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください

(○はそれぞれ1つずつ)。

■ 〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚めるなどが2週間以上続くことがある〉という人が漸増しており2割台半ば

ア 単純集計・経年比較／体調や習慣

(ア) 睡眠度合い、喫煙習慣、身近な医療機関の3項目について、「あてはまる」の割合をみると、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉が66.3%と最も高くなっている。また、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉が26.4%、〈習慣的にタバコを吸っている〉は17.6%となっている。

(イ) 各項目とも前回調査比較では大きな変化はみられない。

(ウ) 平成25年調査と比較すると、〈習慣的にタバコを吸っている〉は漸減しており9年間で5.3ポイント減少し、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉は微増傾向にあり9年間で7.2ポイント増加するなど、ゆるやかに変化している。一方、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉は6割台半ばで推移しており、9年間で大きな変化はみられない。

図5-5-1-① 経年比較／体調や習慣

回答者数 令和4年 (1,531)
3年 (1,709)
2年 (1,746)
元年 (1,590)
平成30年 (1,665)
29年 (1,664)
28年 (1,782)
27年 (1,929)
26年 (1,846)
25年 (1,962)

ア 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

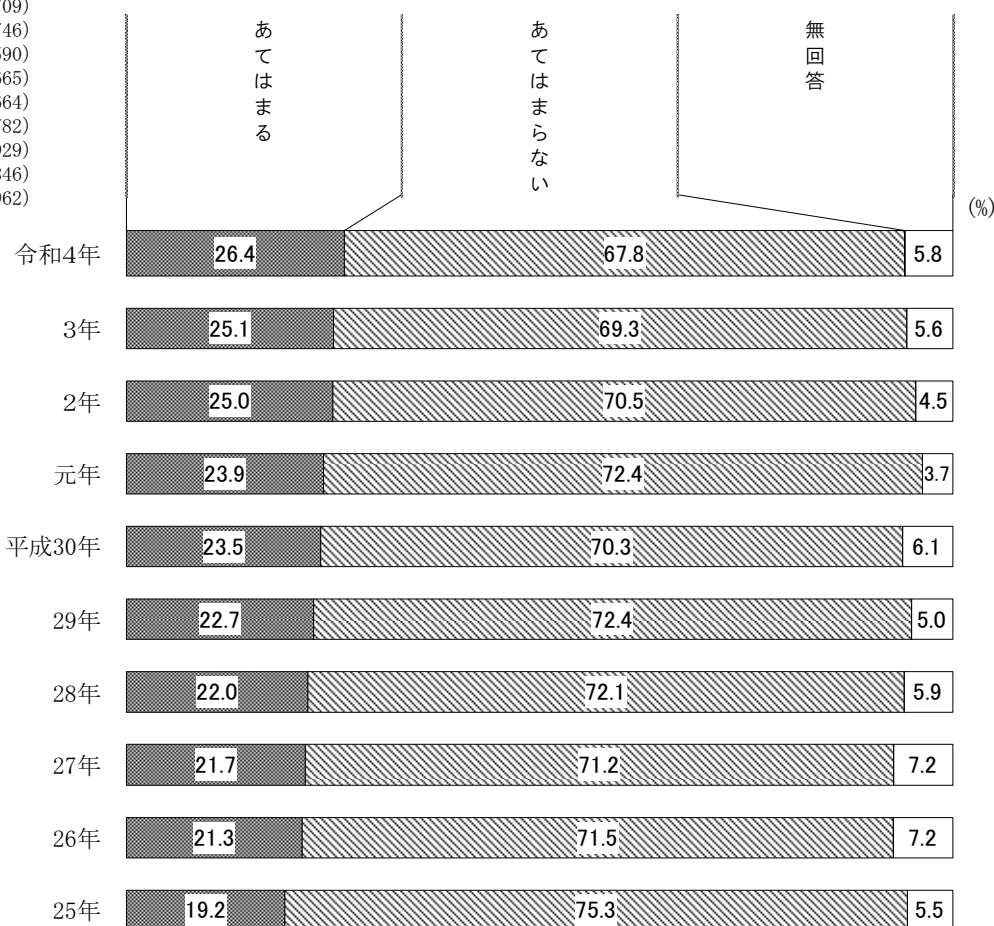
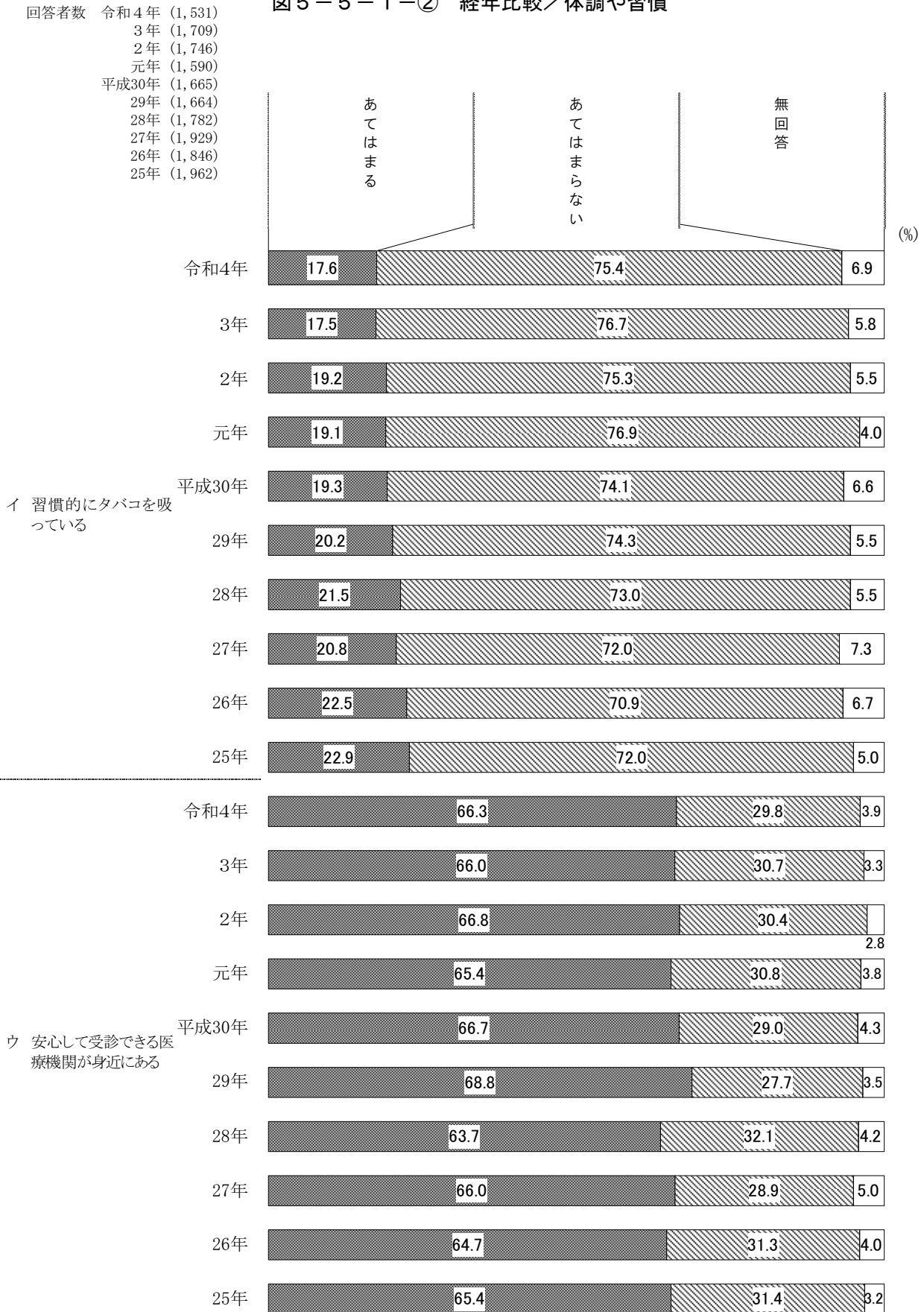


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



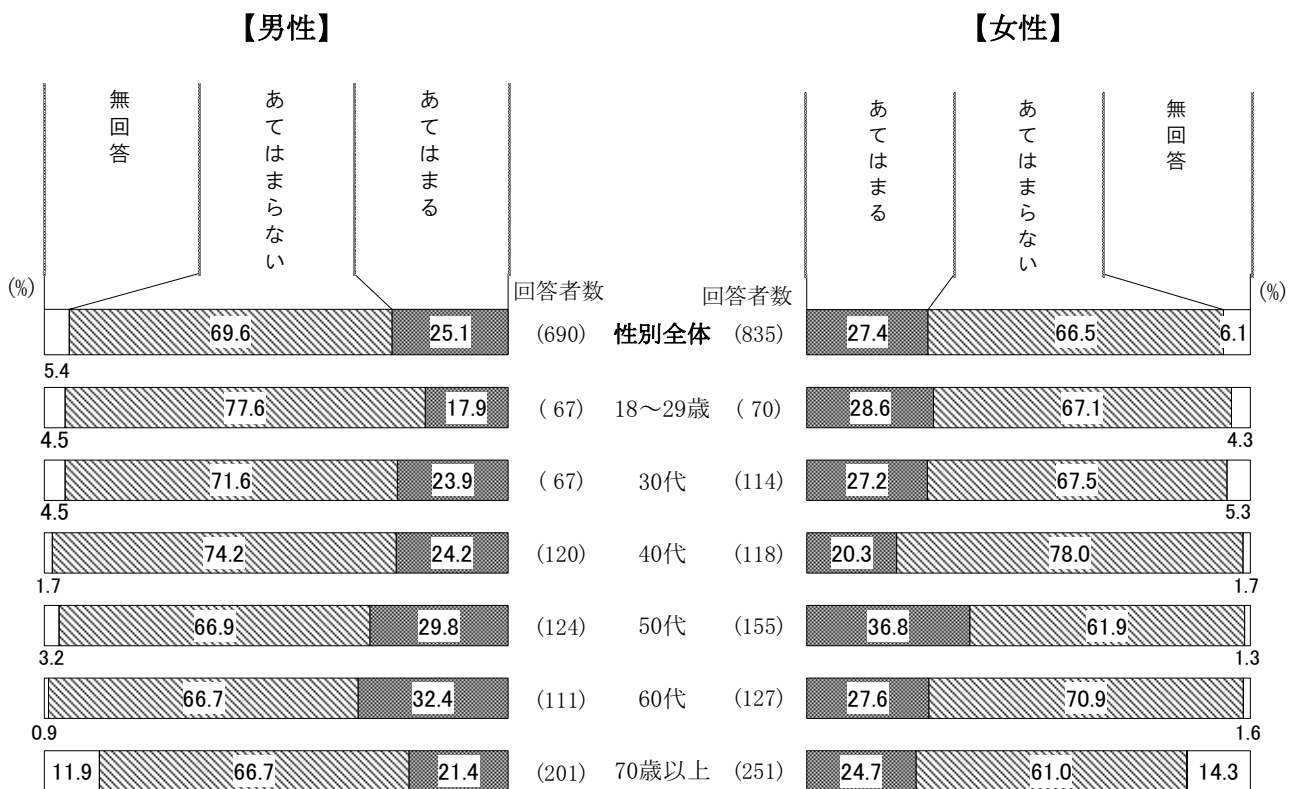
イ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

(ア) 〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は女性(27.4%)の方が男性(25.1%)より2.3ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「あてはまる」は、女性の50代が36.8%で最も高く、次いで、男性の60代が32.4%となっている。一方、男性の18～29歳が17.9%で最も低くなっている。

図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／

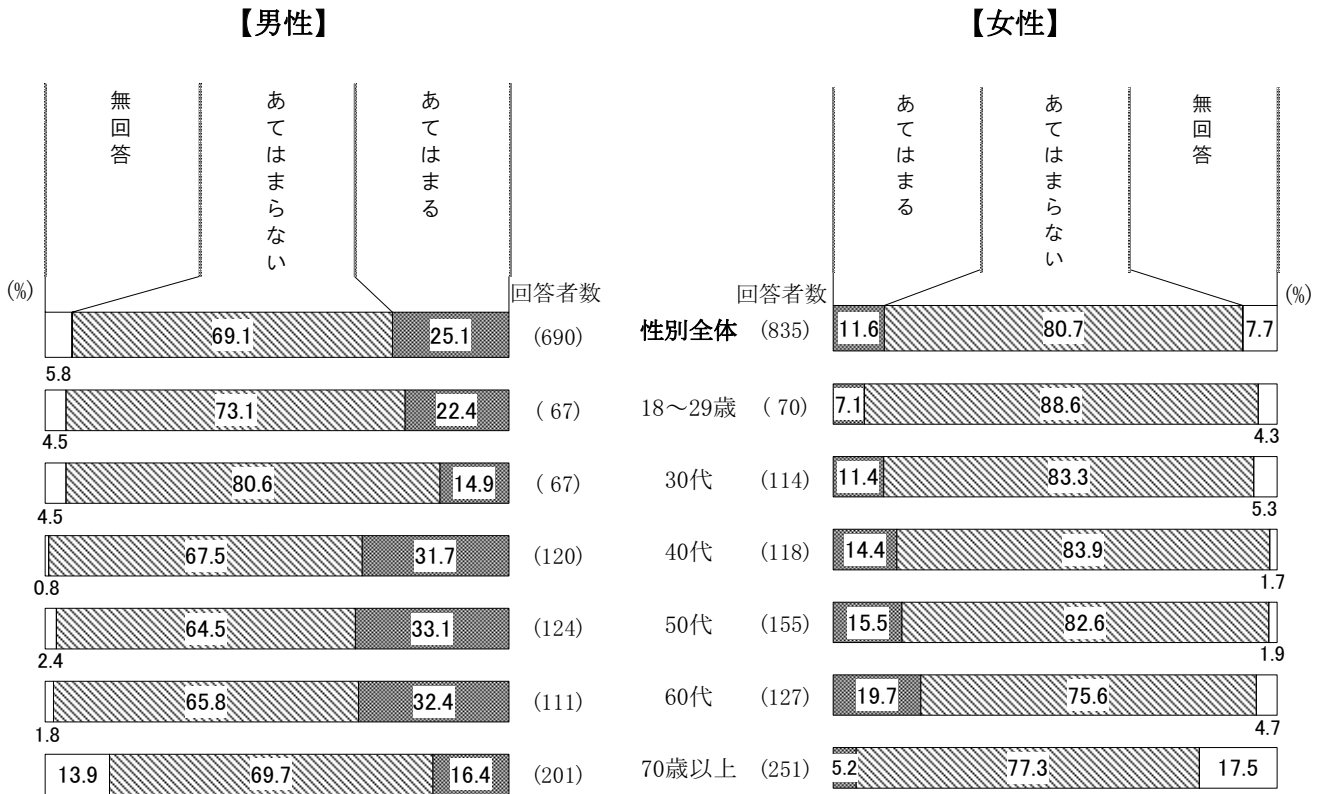
疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



ウ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

- (ア) 〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性(25.1%)の方が女性(11.6%)より13.5ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性の40～60代で3割台前半と高く、女性の70歳以上と18～29歳で1割未満と低くなっている。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

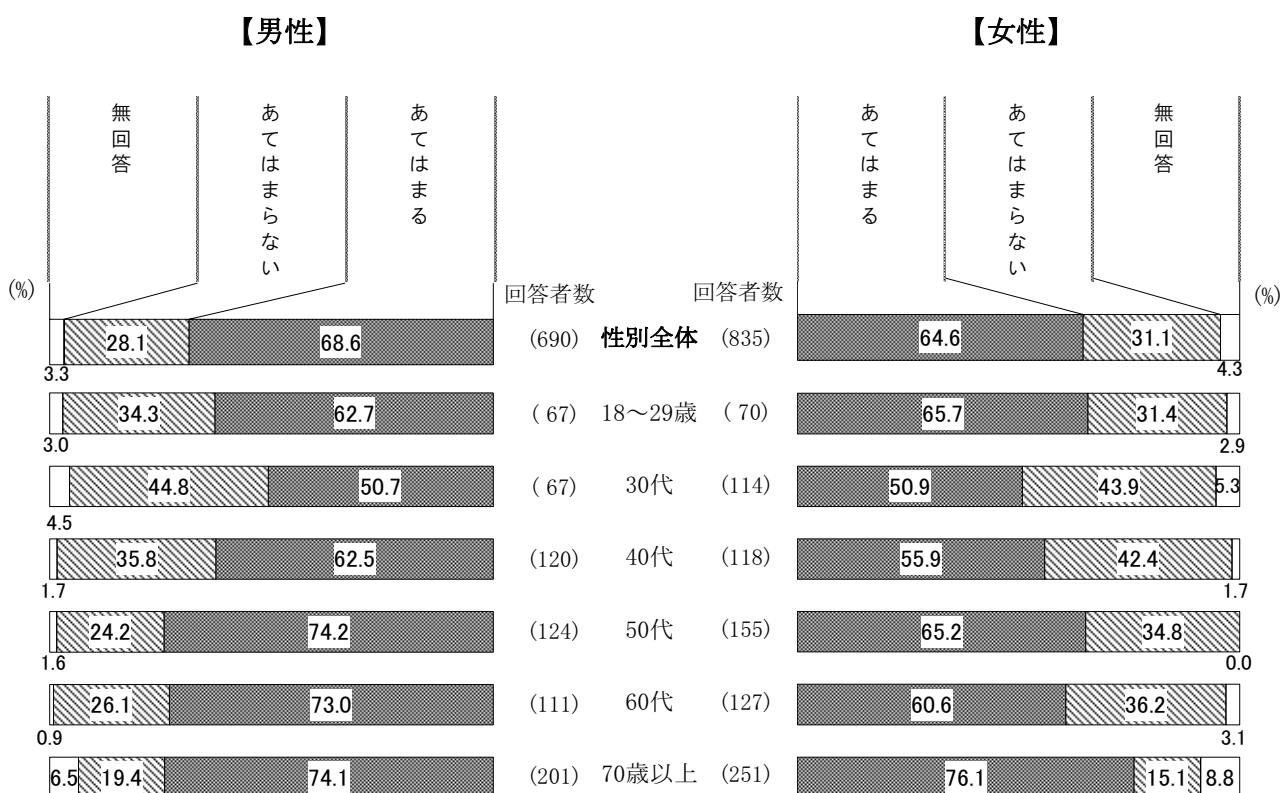


エ クロス集計・性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

(ア) 〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性(68.6%)の方が女性(64.6%)より4.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性の50代(74.2%)、60代(73.0%)、70歳以上(74.1%)と女性の70歳以上(76.1%)で7割台と高く、男性の30代(50.7%)と女性の30代(50.9%)で5割と低くなっている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある



(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

問20 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください(〇はあてはまるものすべて)。

■「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ば近く

ア 単純集計・経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 健康維持のために心がけていることについて、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」(各63.7%)
- ②「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(43.5%)
- ③「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(39.5%)
- ④「日ごろ、健康のために適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」(38.7%) などとなっている。

(イ) 経年でみると、漸増を続けていた「毎年健康診断を受けている」が前回調査から2.7ポイント減少となった。また、「日ごろ、健康のために適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」は前回調査から3.0ポイント増加し、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」も前回調査から2.0ポイントの増加となった。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

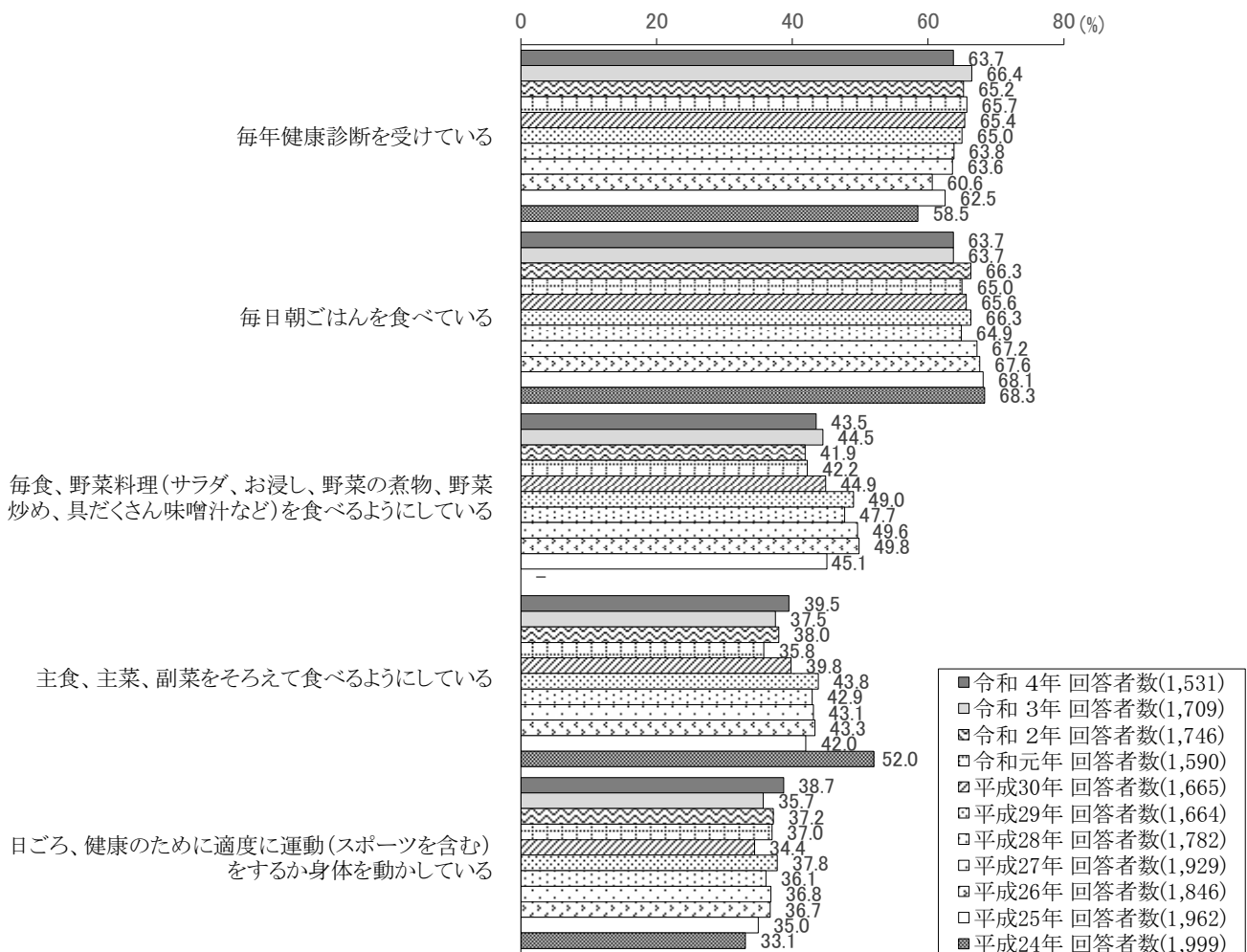
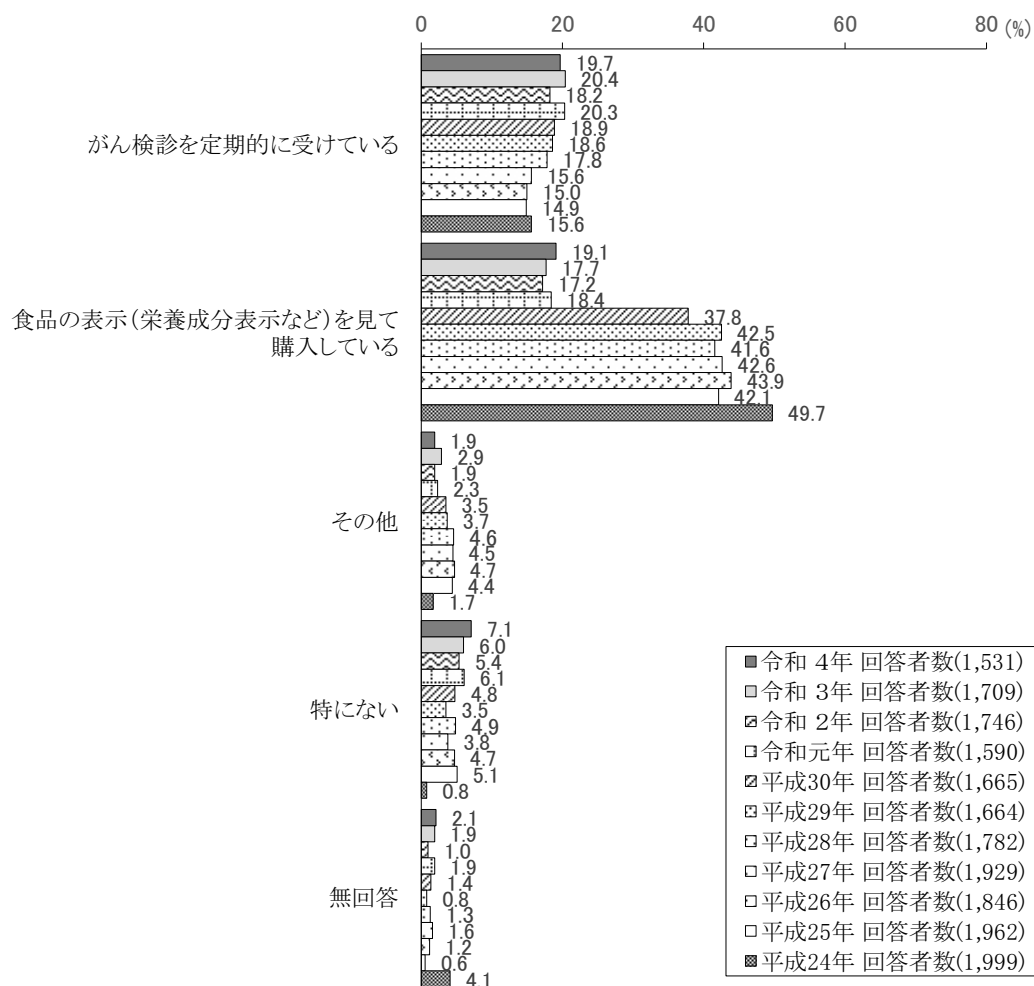


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



※「毎食、野菜料理を食べるようにしている」は平成25年度～平成30年度までは「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」。なお、この項目は平成25年度新設。

※「日ごろ、健康のために適度に運動(スポーツを含む)をするか身体を動かしている」は平成26年度～平成30年度は「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。

※「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は平成24年度～平成30年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」。

※「食品の表示(栄養成分表示など)を見て購入している」は平成24年度～平成30年度までは「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」。

イ クロス集計・性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

(ア) 性別で見ると男性の方が女性より高い項目

a 「毎年健康診断を受けている」(+8.4ポイント)

(イ) 性別で見ると女性の方が男性より高い項目

a 「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(+9.2ポイント)

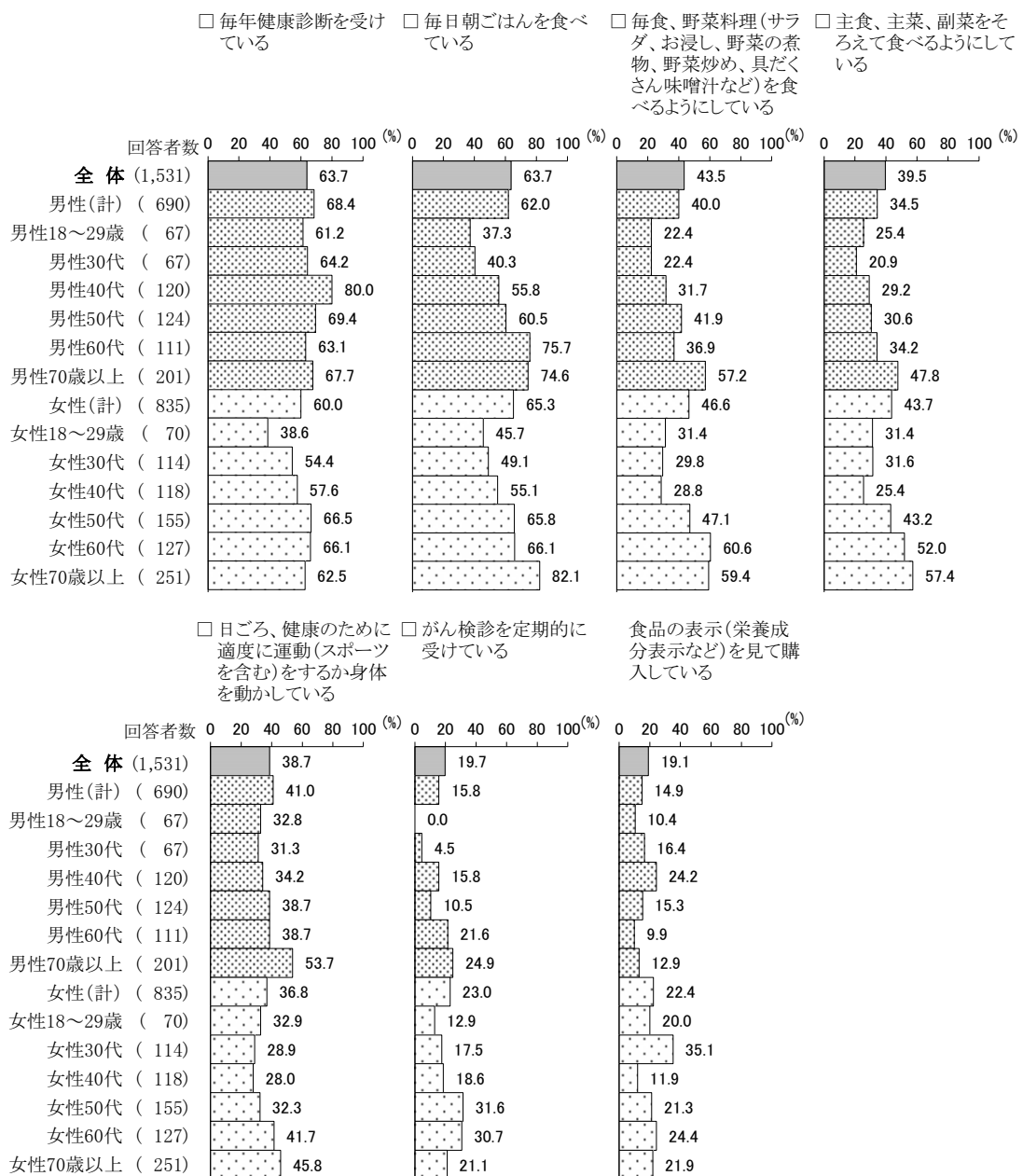
b 「食品の表示(栄養成分表示など)を見て購入している」(+7.5ポイント)

c 「がん検診を定期的に受けている」(+7.2ポイント)

d 「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」(+6.6ポイント)

(ウ) 性・年代別で見ると、「毎年健康診断を受けている」は男性の40代(80.0%)で特に高くなっている。また、「毎日朝ごはんを食べている」、「毎食、野菜料理(サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など)を食べるようにしている」、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」の食事項目については、男女ともおおむね年代が上がるほど割合も高くなっている。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



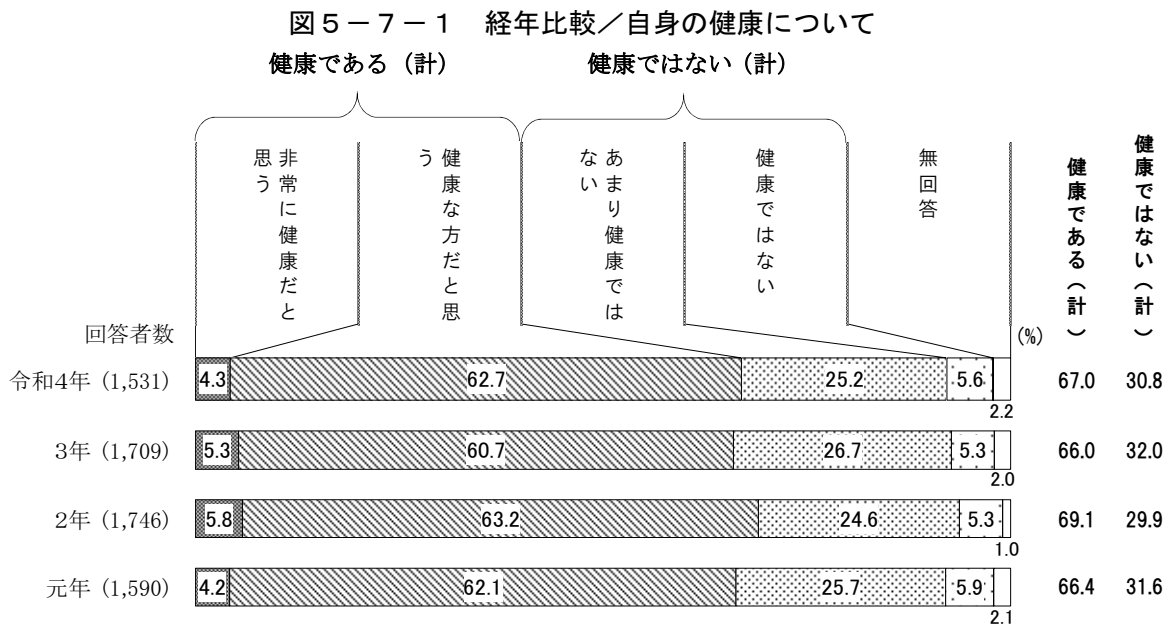
(7) 自身の健康状態について

問21 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

■ 自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

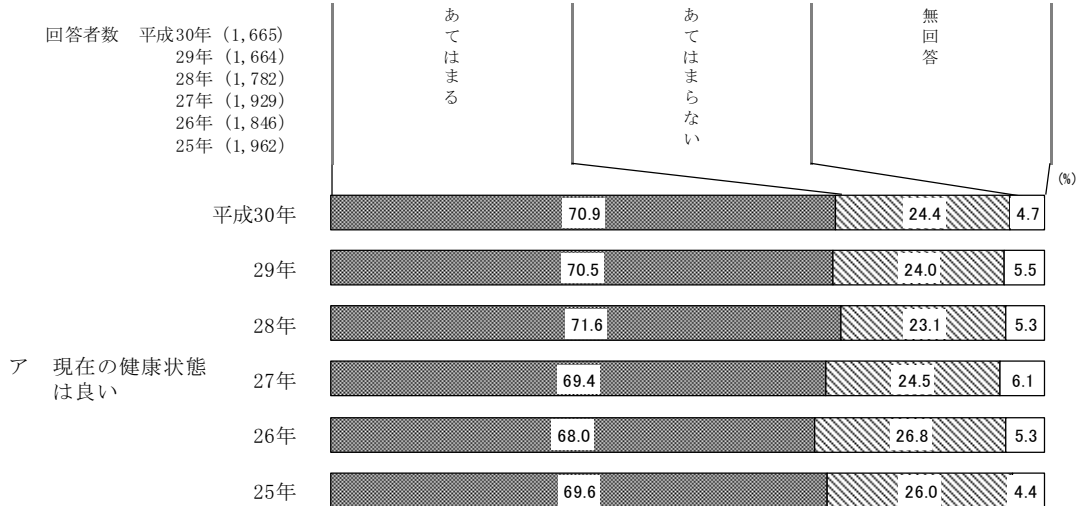
ア 単純集計・経年比較／自身の健康について

- (ア) 自身の健康状態については、「健康な方だと思う」が62.7%を占めており、これに「非常に健康だと思う」(4.3%)を合わせた【健康である】が67.0%となっている。
- (イ) 自身の健康状態は「あまり健康ではない」(25.2%)と「健康ではない」(5.6%)を合わせた【健康ではない】は30.8%となっている。
- (ウ) 前回の令和3年調査と比べると、特に大きな違いはみられない。



参考／体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



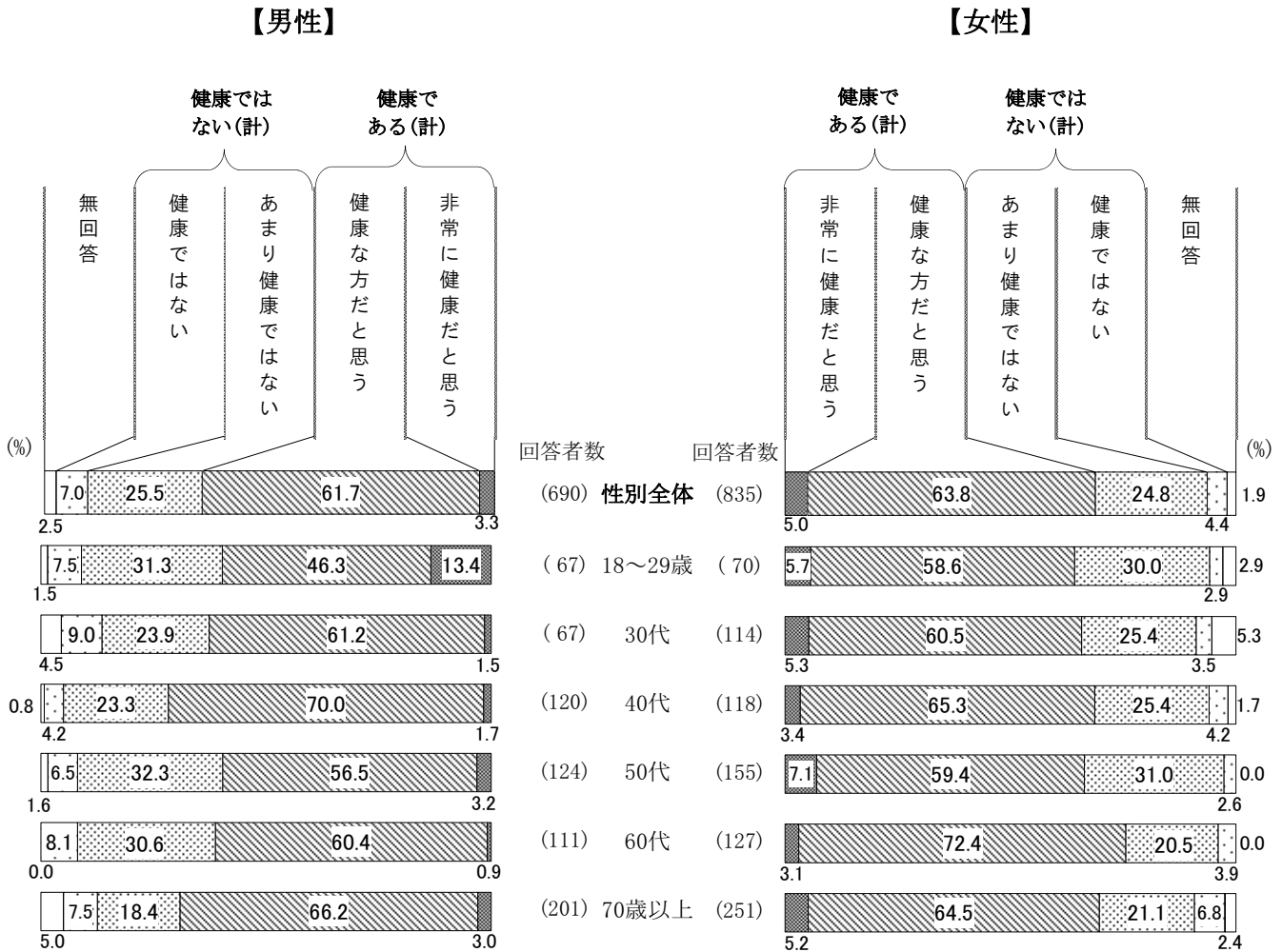
※ 令和元年度より独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態は良い」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

イ クロス集計・性別、性・年代別／自身の健康について

(ア) 性別でみると、【健康である】は女性（68.9%）の方が男性（65.1%）より3.8ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【健康である】は、女性の60代で75.6%と最も高く、男性の40代でも71.7%と高くなっている。逆に、男性の18～29歳と50代がともに59.7%で最も低くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／自身の健康について



(8) がん検診の受診状況

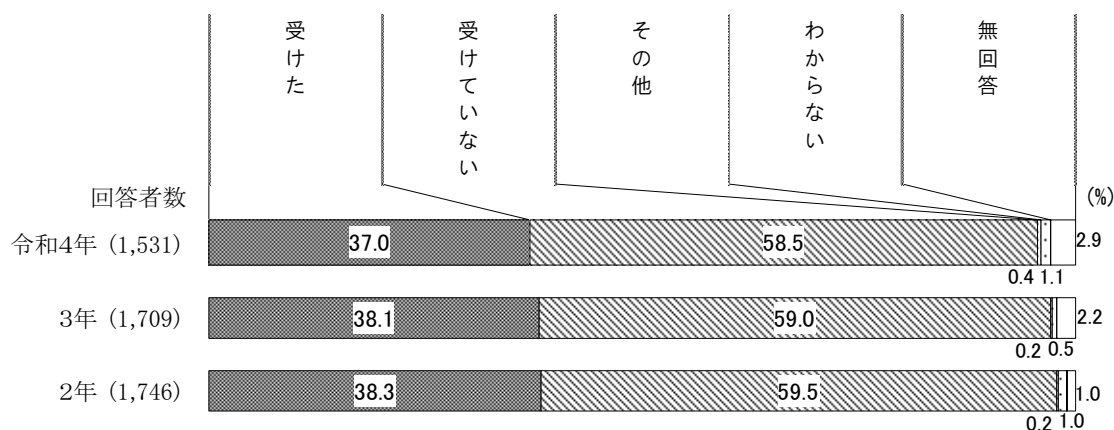
問22 あなたは、この一年間で、何らかのがん検診を受けましたか（○は1つだけ）。

■ この一年間にかん検診を受けた人の割合は3割台半ばで、「受けていない」が6割弱

ア 単純集計・経年比較／がん検診の受診状況

- (ア) この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が37.0%で、「受けていない」(58.5%)より20ポイント以上上下回っている。
- (イ) 前回の令和3年調査と比較すると、ほぼ同じ割合で変動はみられない。

図5-8-1 経年比較／がん検診の受診状況

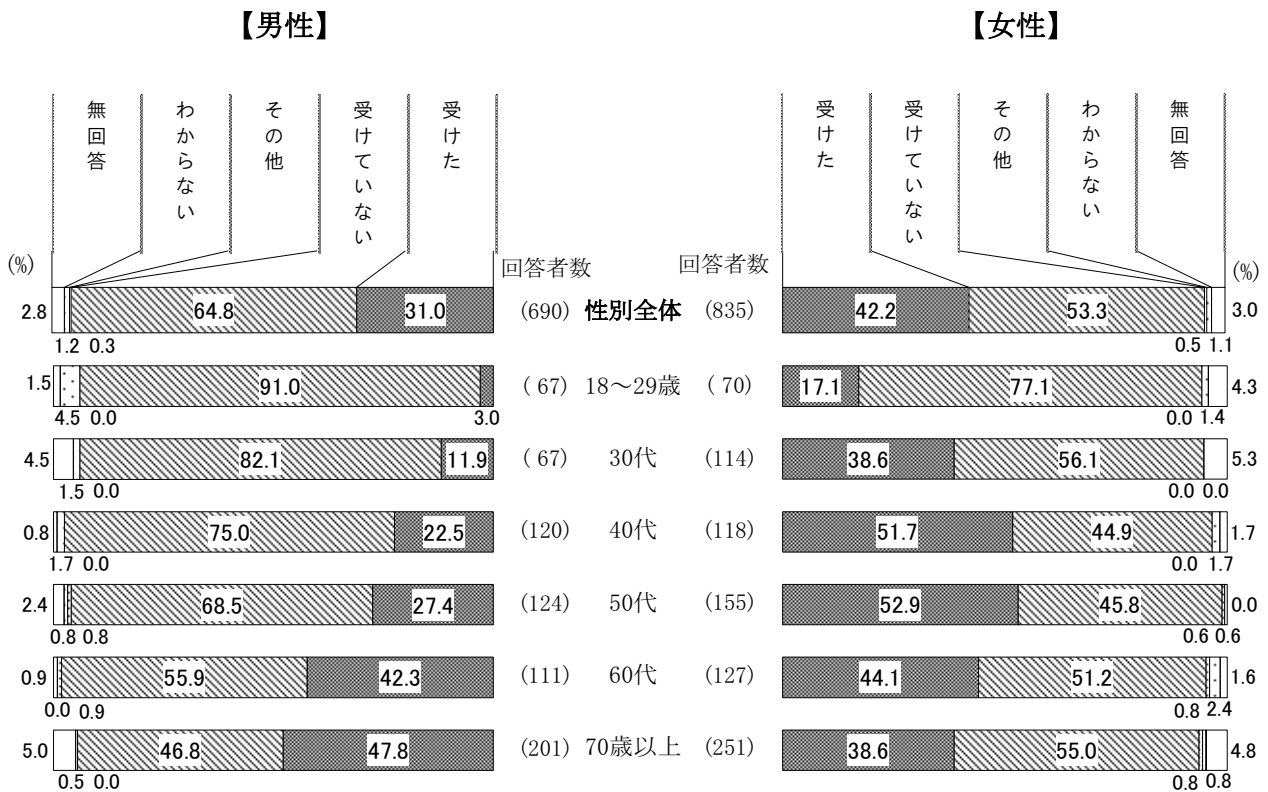


イ クロス集計・性別、性・年代別／がん検診の受診状況

(ア) 性別で見ると、「受けた」は、女性(42.2%)の方が男性(31.0%)より11.2ポイント高く、性差が大きくなっている。

(イ) 性・年代別で見ると、「受けた」は、男性では18～29歳(3.0%)で最も低く、年代が上がるほど割合が高くなり70歳以上で47.8%となっている。女性では、40代(51.7%)と50代(52.9%)で5割強と高く、18～29歳で17.1%と最も低くなっている。

図5-8-2 性別、性・年代別／がん検診の受診状況



（9）受けたがん検診の種類

問22で「1 受けた」とお答えの方に

問22-1 あなたが受けたがん検診は以下のどれですか（〇はあてはまるものすべて）。

■「大腸がん検診」が5割弱、「胃がん検診」が3割台半ば超え

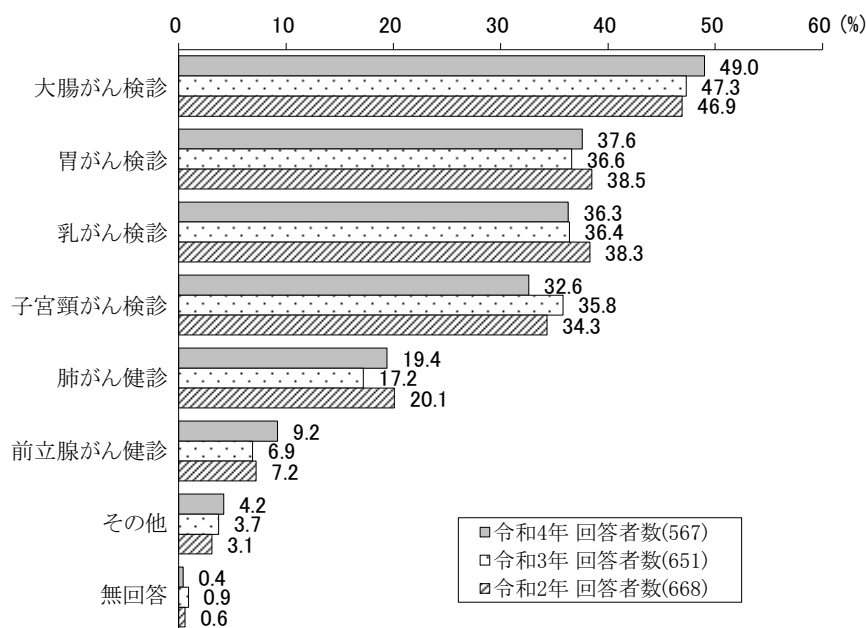
ア 単純集計・経年比較／受けたがん検診の種類

（ア）この一年間に受けたがん検診の種類について、上位は以下のとおりとなっている。

- ①「大腸がん検診」（49.0%）
- ②「胃がん検診」（37.6%）
- ③「乳がん検診」（36.3%）

（イ）前回の令和3年調査と比べると、上位の3検診には大きな違いはないが、「子宮頸がん検診」で前回調査（35.8%）に比べて3.2ポイント減少し「肺がん検診」で前回調査（17.2%）に比べて2.2ポイント増加している。

図5-9-1 経年比較／受けたがん検診の種類



<参考> 足立区が区民対象に行っているがん検診

検査項目	受診対象	自己負担金	備考
胃がんハイリスク検診	40歳から74歳の間に1回のみ受診可	1,000円	
胃がん内視鏡検診	50歳以上 ※2年度に1回受診可	2,000円	
肺がん検診	40歳以上毎年度受診可	800円	かく痰検査は+300円
大腸がん検診	40歳以上毎年度受診可	300円	
子宮頸がん検診	20歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	初該当年に無料クーポン券あり
乳がん検診	40歳以上 ※2年度に1回受診可	500円	
前立腺がん検診	60歳から64歳の間毎年度受診可	800円	

※ がん検診は足立区が行っている「区のがん検診」以外に、職場で行う「職場のがん検診」、医療機関で行う人間ドックなどの「個人的な検診」などがあり、また上記表のとおり検査項目によって受診対象が異なることを考慮する必要がある。

イ クロス集計・性別、性・年代別／受けたがん検診の種類

(ア) 性別で見ると、がん検診の種類に応じて性差が大きい。

(イ) 性別で見ると、男性の受診が高い項目

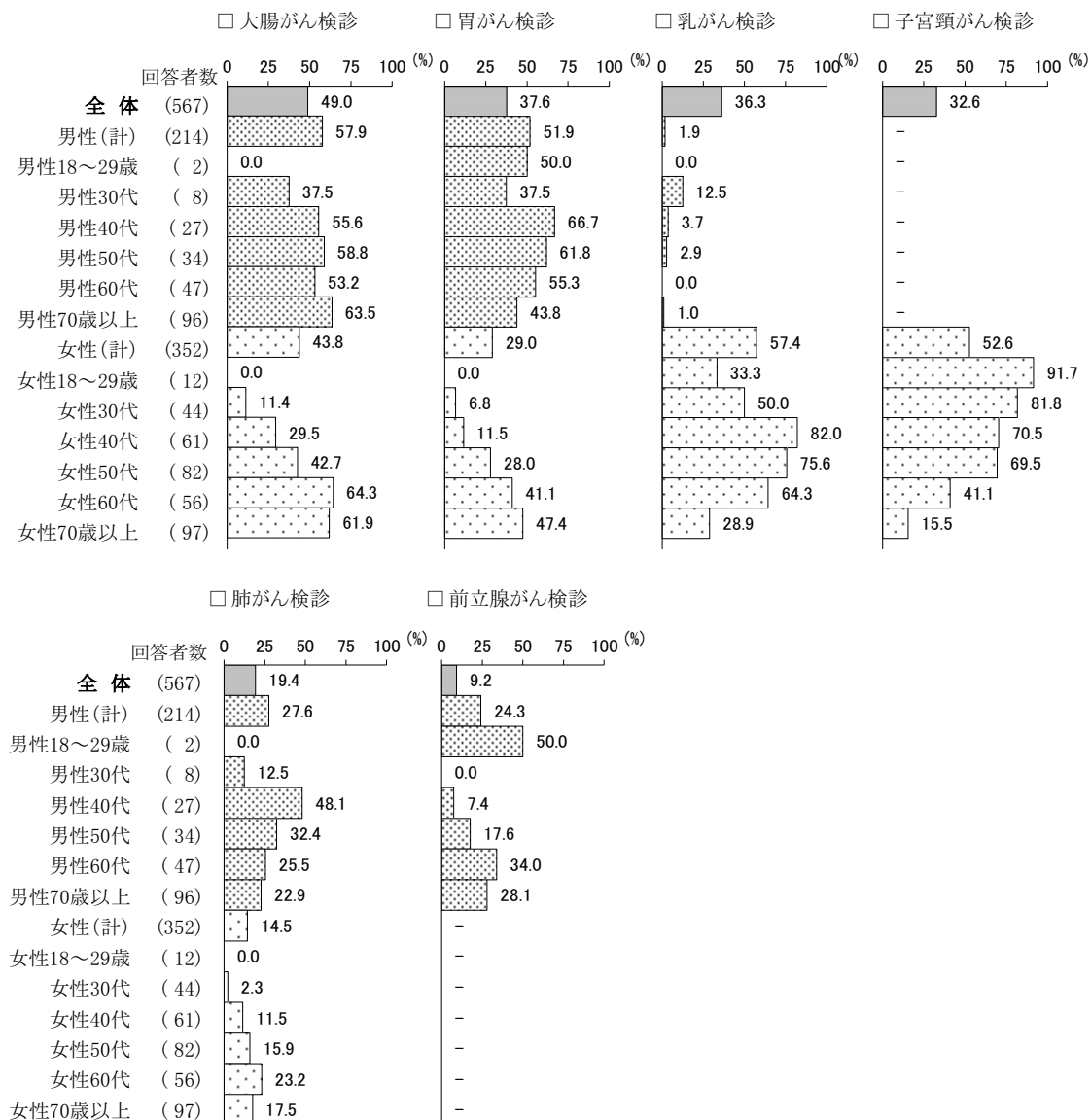
- a 「大腸がん検診」(57.9%)
- b 「胃がん検診」(51.9%)
- c 「肺がん検診」(27.6%)
- d 「前立腺がん検診」(24.3%)

(ウ) 性別で見ると女性の受診が高い項目

- a 「乳がん検診」(57.4%)
- b 「子宮頸がん検診」(52.6%)

(エ) 性・年代別にみると、男性の18～29歳と30代、女性の18～29歳でサンプル数が少ないため分析から除外するが、男性の場合は、「胃がん検診」と「肺がん検診」で40代(66.7%・48.1%)が最も高く、「大腸がん検診」で70歳以上(63.5%)が最も高くなっている。女性の場合は、「子宮頸がん検診」は30代で81.8%と高く、年代が上がるほど割合が低くなる傾向がみられる。また、「乳がん検診」は40代(82.0%)と50代(75.6%)で高くなっている。

図5-9-2 性別、性・年代別／受けたがん検診の種類



(10) かかりつけ歯科医院

問23 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか（○は1つだけ）。

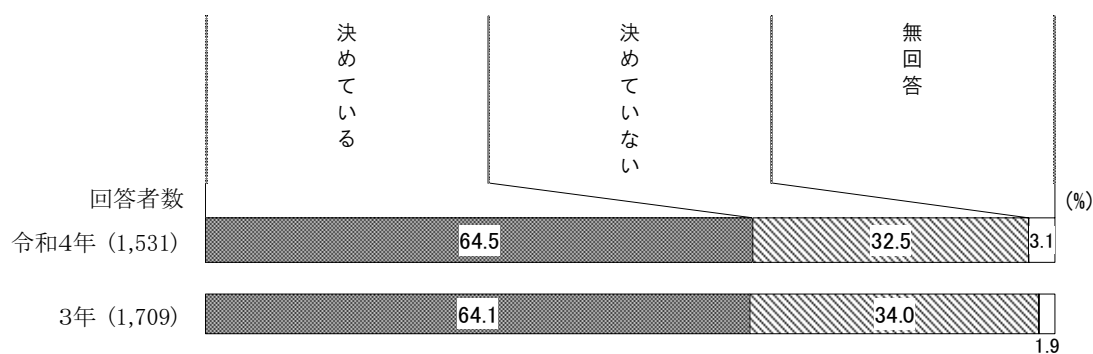
■「決めている」が6割台半ば

ア 単純集計・前回調査比較／かかりつけ歯科医院

(ア) かかりつけ歯科医院については、「決めている」が64.5%で、「決めていない」の32.5%を上回っている。

(イ) 前回の令和3年調査と比べると、特に大きな違いはみられない。

図5-10-1 前回調査比較／かかりつけ歯科医院



<参考>

令和元年度東京都福祉保健基礎調査「都民の健康と医療に関する実態と意識」（令和元年10月実施）

調査対象：都内6,000世帯を対象にし、3,283世帯の7,369人からの回答が得られた。

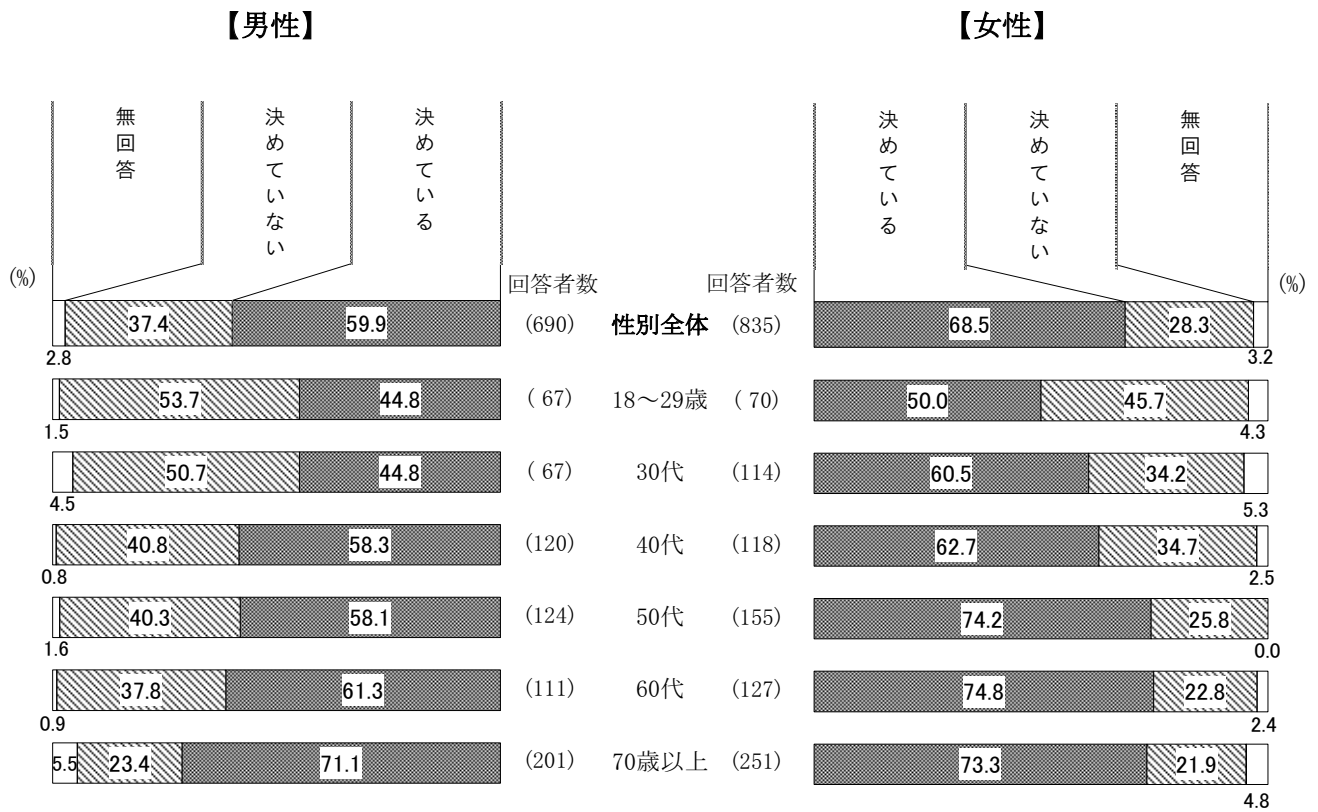
調査結果：「決めている」70.8%、「決めていない」(26.1%)、「無回答」(3.1%)

イ クロス集計・性別、性・年代別／かかりつけ歯科医院

(ア) 性別でみると、「決めている」は女性（68.5%）の方が男性（59.9%）より8.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、「決めている」は男女ともおおむね年代が上がるほど割合も高くなる傾向がみられ、男性の18～29歳と30代（各44.8%）で4割台半ばと低く、女性の50代以上と男性の70歳以上で7割台と高くなっている。

図5-10-2 性別、性・年代別／かかりつけ歯科医院



(11) 歯科医院で治療のほかに受けている内容

問23で「1 決めている」とお答えの方に

問23—1 その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものはありますか（○はあてはまるものすべて）。

■治療のほかに受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」が6割台半ば近く

ア 単純集計・前回調査比較／歯科医院で治療のほかに受けている内容

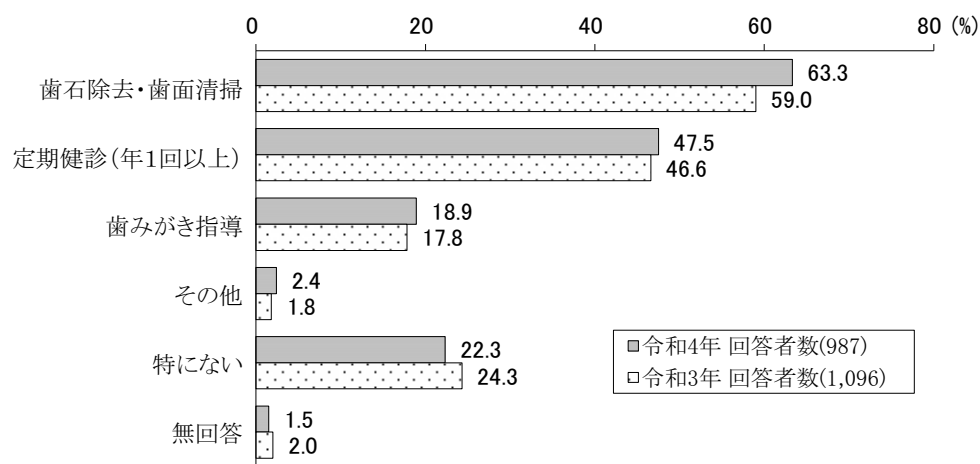
(ア) かかりつけ歯科医院でむし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに受けているものを高い順にみると、以下のとおりとなっている。

- ①「歯石除去・歯面清掃」(63.3%)
- ②「定期健診(年1回以上)」(47.5%)
- ③「歯みがき指導」(18.9%)

(イ) 前述の3項目を合わせた【治療のほかに受けているものがある】は76.2%、「特にない」は22.3%となっている。

(ウ) 前回の令和3年調査と比べると、「歯石除去・歯面清掃」が4.3ポイント増加している。

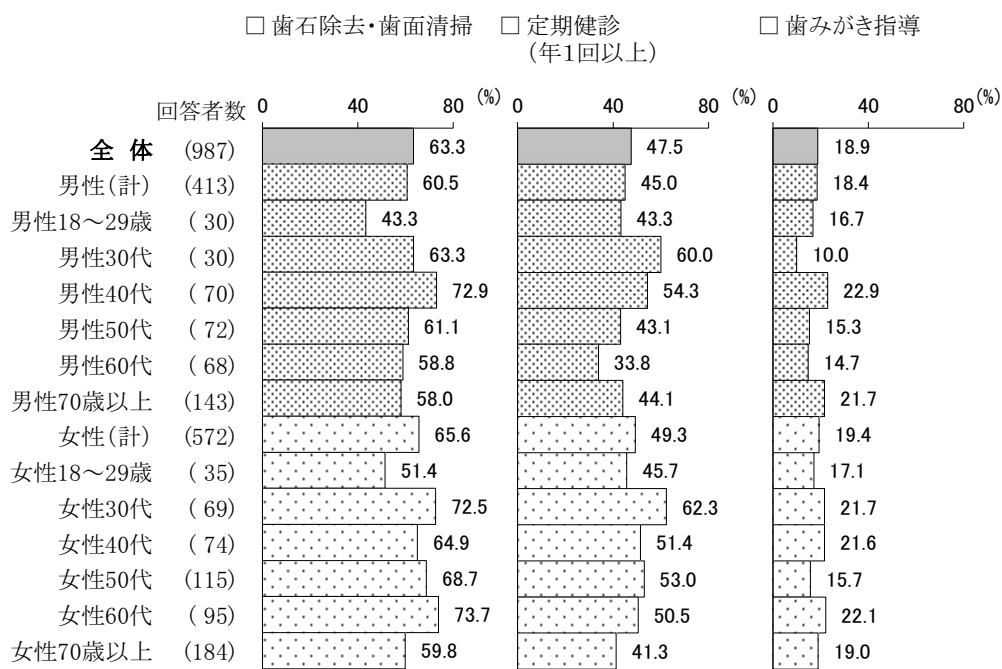
図5-11-1 前回調査比較／歯科医院で治療のほかに受けている内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／歯科医院で治療のほかに受けている内容

- (ア) 性別にみると、【治療のほかに受けているものがある】(回答者数－「特にない」－「無回答」)は女性(77.4%)の方が男性(74.6%)より2.9ポイント高くなっている。
- (イ) 具体的な内容のすべての項目でも女性が高く、「歯石除去・歯面清掃」で5.1ポイント、「定期健診(年1回以上)」で4.3ポイントそれぞれ高くなっている。
- (ウ) 性・年代別にみると、【治療のほかに受けているものがある】は女性の30代で84.1%と最も高く、男性の60代で64.7%と最も低くなっている。「歯石除去・歯面清掃」は男性の40代と女性の30代、60代で7割台と高く、「定期健診(年1回以上)」は女性の30代と男性の30代で6割台と高くなっている。

図5-11-2 性別、性・年代別／歯科医院で治療のほかに受けている内容



(12) 感染症予防としての手洗いの実践状況

問24 あなたは、帰宅時に感染症予防として手洗いを実践していますか（○は1つだけ）。

■「毎日（毎回）行っている」人が8割台半ば

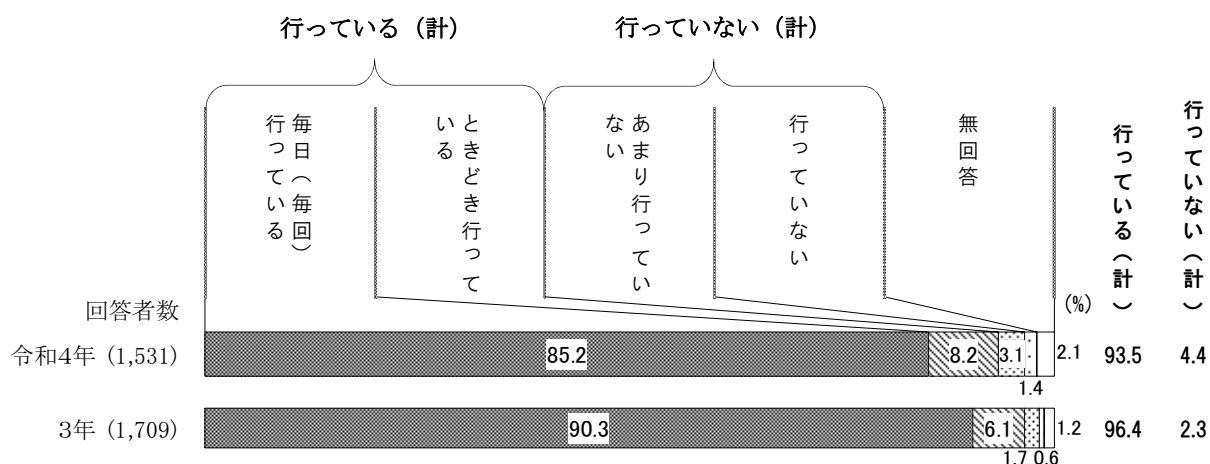
ア 単純集計・前回調査比較／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 帰宅時における感染症予防としての手洗いの実践状況は、「毎日（毎回）行っている」が85.2%を占めており、これに「ときどき行っている」(8.2%)を合わせた【行っている】(93.5%)は9割台半ば近くとなっている。

(イ) 帰宅時における手洗いを「あまり行っていない」(3.1%)と「行っていない」(1.4%)を合わせた【行っていない】(4.4%)は僅かとなっている。

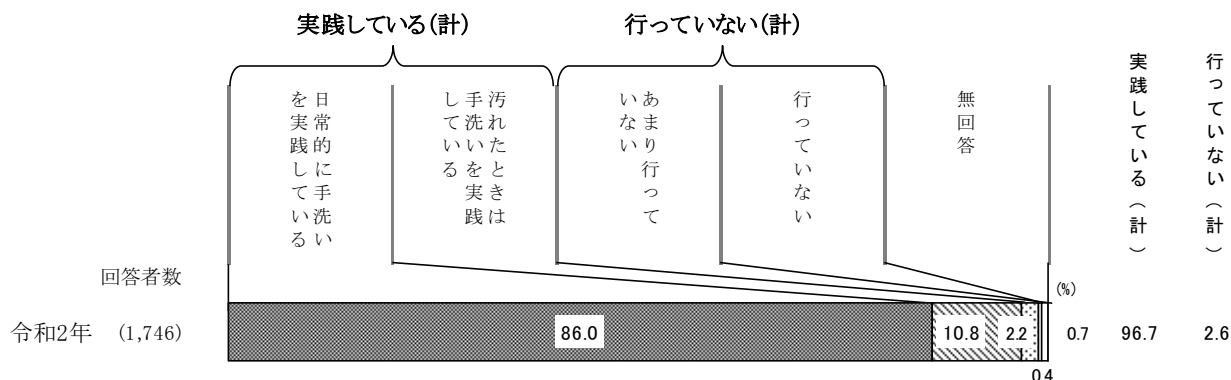
(ウ) 前回の令和3年調査と比べると、【行っている】が2.9ポイント減少している。

図5-12-1 前回調査比較／感染予防としての手洗いの実践状況



参考／（令和2年調査）感染症予防としての手洗いの実践状況

問 あなたは、日頃から感染症予防としての手洗いを実践していますか。（○は1つだけ）

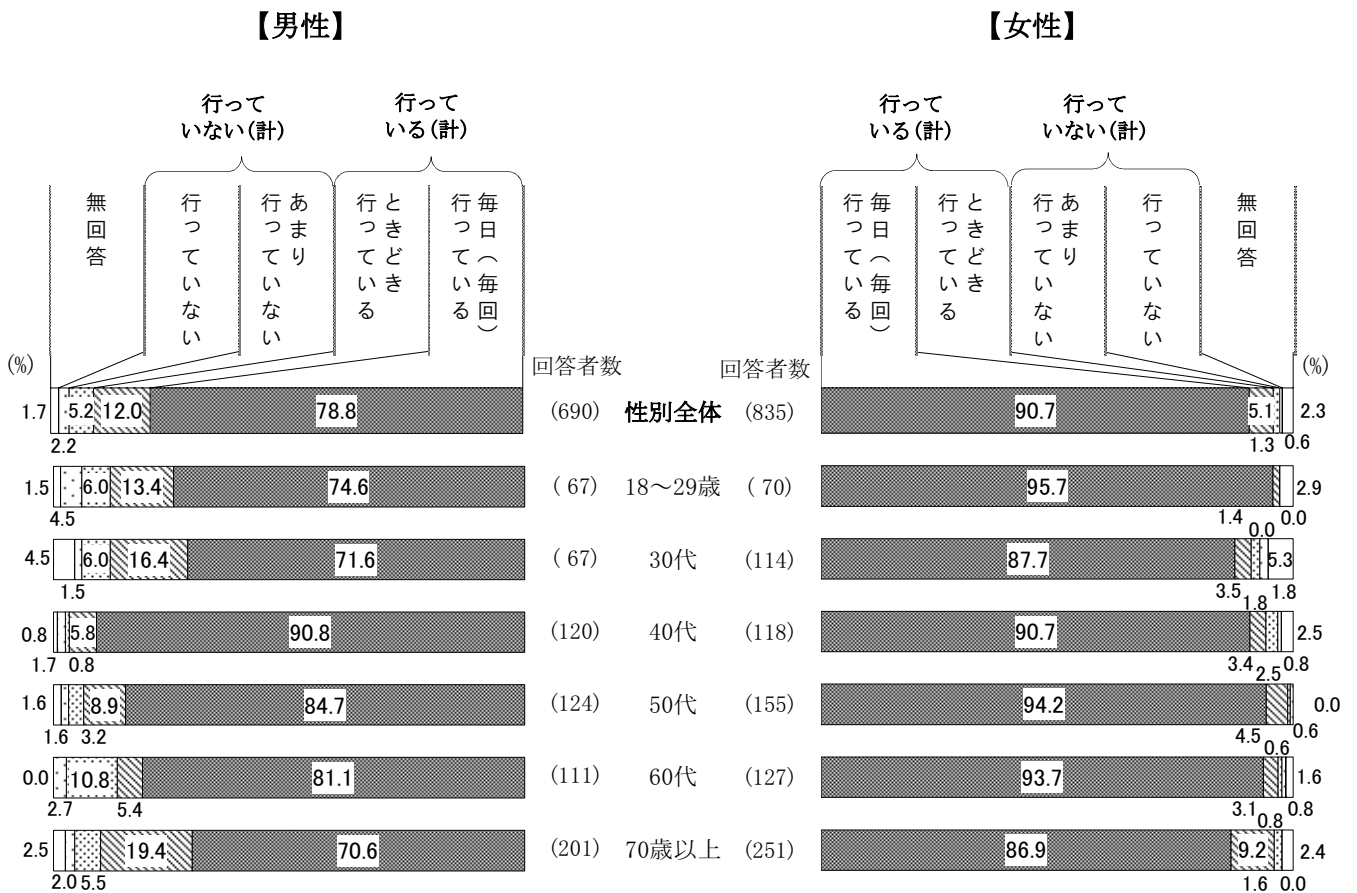


イ クロス集計・性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況

(ア) 性別にみると、【行っている】は女性（95.8%）の方が男性（90.9%）より4.9ポイント高く、「毎日（毎回）行っている」でみると、女性（90.7%）の方が男性（78.8%）より11.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【行っている】は、女性では30代と40代を除く年代層で9割台後半と高く、男性では40代のみ9割台後半となっている。逆に男性の60代で8割台半ばと最も低くなっている。

図5-12-2 性別、性・年代別／感染予防としての手洗いの実践状況



(13) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

問25 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

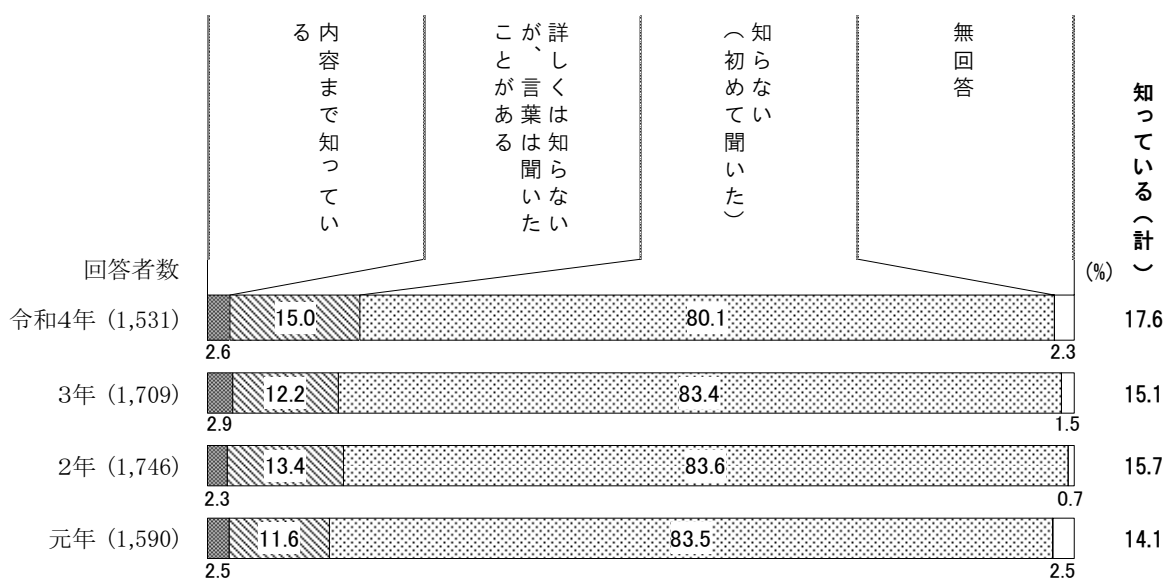
※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

■【知っている】は1割台半ば超え、「知らない（初めて聞いた）」が8割

ア 単純集計・経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

- (ア) 「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が80.1%を占めている。
- (イ) 「ゲートキーパー」という言葉を「内容まで知っている」（2.6%）は僅かで、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（15.0%）を合わせた【知っている】は17.6%となっている。
- (ウ) 経年でみると、前回の令和3年調査と比較すると、【知っている】が2.5ポイント増加している。

図5-13-1 経年比較／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は男性（22.0%）の方が女性（14.1%）より7.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、【知っている】は、男性の40代で28.3%と最も高くなっている。一方、女性ではすべての年代層が1割台と低い割合であり、40代が11.0%と最も低くなっている。

図5-13-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

